

2023 年度 倉敷中央看護専門学校 自己点検・自己評価結果

1. 目的

本校の看護教育の充実に向けて、自己点検・自己評価を行い、学校運営・教育活動の改善・維持・発展の活動を推進する。

2. 評価の視点

1) 厚生労働省「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を参照し、「評価」は9 カテゴリー、「点検」は67 項目、125 の視点から評価している。

[9 カテゴリー]

I 教育理念・教育目的

II 教育目標

III 教育課程経営

IV 教授・学習・評価過程

V 経営・管理過程

VI 入学

VII 卒業・就業・進学

VIII 地域社会・国際交流

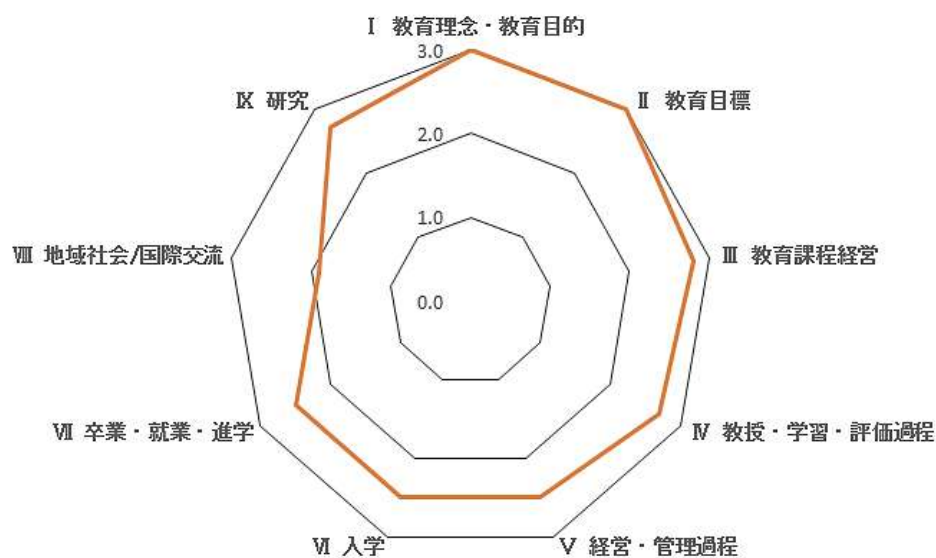
IX 研究

3. 2023 年度 倉敷中央看護専門学校 自己点検・自己評価結果

評価基準 3 (当てはまる)

2 (やや当てはまる)

1 (当てはまらない)



カテゴリ	評価点	概要
I 教育理念 教育目的	3.0	2023 年度から新カリキュラムが開始となり、教育目的・教育目標・ディプロマポリシー（DP）・カリキュラムポリシー（CP）・アドミッションポリシー（AP）を策定し運用している。学年目標のガイダンスを行い、年度末に自己評価を行うことで学生にとって目標設定や学習の指針になっている。
II 教育目標	3.0	
III 教育課程 経営	2.8	新カリキュラム運用は 2 年目となり、改正のポイントとなった地域・在宅看護論、臨床判断の基礎的能力の育成については目的に応じた学習内容となった。新たな実習施設である倉敷中央病院リバーサイドや地域包括支援センター・在宅介護支援センターでは退院支援や地域連携等が学べる実習となった。カリキュラム評価を行い、カリキュラムの過密さや社会の変化に伴う入学生の資質の変化を受け、1 年次からの学習の定着、思考力・判断力の育成や自己教育力・社会人基礎力育成の課題が見えた。教員間の相互研鑽の中で学習・研究活動が推進できるような環境づくりが必要である。
IV 教授・学習・ 評価過程	2.7	授業形態は学生が基礎知識を活用し、思考しながら主体的に学べるアクティブラーニング等工夫している。また各科目の学びを関連させ、順序性、重複等を考慮し学習内容や配列を調整した。しかし、母体病院の急性期化に伴い、1 科目を複数の講師が担当しており、講義内容が細分化していることは課題である。臨地実習の評価では看護実践者としての自己評価力を身につけることが課題となった。
V 経営・管理 過程	2.5	自己点検・自己評価・関係者評価を定期的に実施し学校経営に活かしている。学校からの情報発信について、対象者の立場に立った内容であるかを確認し、学校案内を改訂した。またインスタグラムの情報発信は定着しているが、ホームページでの情報公開については課題がある。学生支援体制として「ハラスメント防止に関するガイドライン」を策定し、2024 年度より運用できる体制を整えた。また、「高等教育の修学支援新制度」の運用、2024 年度施行の「専門実践教育訓練の給付金」の整備を行った。倉敷中央病院と共に創立 100 周年を迎え、記念式典の開催・記念誌の発行を行い、歴史を振り返った。
VI 入学	2.5	18 歳人口の減少や社会の変化と共に学生募集が厳しい状況の中、募集定員の確保ができた。入試結果を分析し、2024 年度の試験方法の検討を行った。社会情勢を見通し、効果的な募集活動を継続的に行う必要がある。
VII 卒業・就業・ 進学	2.5	46 名の卒業生を輩出した。倉敷中央病院の就職は 93.5%、他希望の進学先に進んだ。国家試験の合格率は 97.8%であった。進路選択や就職試験の時期が早まっており、就職ガイダンスの方法について検討した。卒業生の支援として、ホームカミングデーを実施した。
VIII 地域社会 国際交流	1.9	地域・在宅看護論のフィールドワークやボランティア活動に参加した。また、病院オープンホスピタル・予防医療ブラザ健康フェア等のボランティア活動に参加した。地域からの依頼による健康チェックや講座等も開催し、地域との交流が広がっている。国際的視野を広げるための科目や留学生受け入れ体制については検討できていない。
IX 研究	2.7	教員が研究活動を行う上で母体病院の研究委員が支援する体制が整っているが、教員の時間の確保ができていない。研究活動が行える体制づくりには課題がある。

4. 学校関係者評価委員会（2024 年 6 月 19 日）開催

1) 学校関係者評価委員

仕田原 孝志様：医療法人 社団造山会 まきび病院 看護師長 非常勤講師（担当：精神臨床看護Ⅱ）

高村 洋子様：倉敷中央病院 副院長 看護本部本部長

小野 直美様：倉敷中央病院 看護本部副本部長

柴田 由美子様：倉敷中央訪問看護ステーション所長（担当：地域・在宅看護援助論Ⅰ）

大西 智香様：倉敷中央病院リソースナース部精神看護専門看護師 非常勤講師（担当：精神看護概論）

佐藤 史帆様：卒業生

幡多 くるみ様：卒業生

2) 委員からのご意見

- ・授業では学生が関心を持って取り組めるような工夫が更に必要と感じている。
- ・2 年次領域別実習前のシミュレーション授業（実践演習）の効果があるのか、実習の導入がスムーズであると感じる。
- ・授業中のスマートフォンの使用や撮影等について、学生のマナー・情報リテラシーの課題がある。
- ・社会の変化により、主体的に学習する能力、人間関係を構築したり協力する能力、挨拶など社会人基礎力の課題がある。
- ・卒業生の看護実践の様子から患者中心の看護を行っている者が多く、倫理的側面も育成されている。
- ・卒業生に対するホームカミングデーの実施や現場で悩んだ時に相談できる環境があり、落ち着いて仕事を行っている者が多い。
- ・近年の若者の価値観の変化によって指導をどのように行おうとよいのか悩む事もあるが、臨床指導者会議は学生理解が深まる貴重な会議となっている。臨床指導者として学生が学びやすい実習環境となるよう整備している。今後も情報共有し連携して実習指導を行えると良い。
- ・社会人の入学希望者への情報提供として、奨学金や募集定員など具体的な情報があると良い。

以上